

科目名	中世文学講読 I	
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	『方丈記』を演習形式で読む。洗練された格調高い文体を味わいつつ、五大災厄、数寄の精神と仏道、庵居の機微をめぐる長明の思想を読みとり、中世草庵文学の特質を知る。
	到達目標	1) 『方丈記』を受講者全員で最後まで読み通す。 2) 古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 参考文献を用いて内容を理解し、説明できる。
授業計画	(1) 概説 (時代背景・随筆・鴨長明) (2) 〃 (成立・書名・内容・伝本)、担当段と日程の調整 (3) 『発心集』『無名抄』、大福光寺本方丈記 (複製) (4) ゆく河のながれ (演習モデル)、参考文献紹介 (5) 安元の大火/治承の辻風 (以下、受講者が担当し発表、質疑応答) (6) 福原への遷都 (7) 養和の飢饉 (8) 元暦の大地震/すべて世の中ありにくく (9) あられぬ世を念じすぐしつ/末葉の宿り (10) 日野山の奥にあとをかくして/春は藤波を見る (11) もし、うららかなれば/もし、夜、静かなれば (12) 仮の庵もややふるさととなりて/手の奴、足の乗物 (13) 三界はただ心ひとつ/静かなる暁 (14) 補遺 (演習予備回) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・原文を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない言葉・部分をチェックしておくこと。
	事後学習	・演習資料の現代語訳を用いて、内容を確認すること。 ・疑問点があれば、次回質問できるようにしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】浅見和彦編『カラー版方丈記・伊勢記』おうふう 2001年 【参】梁瀬一雄『方丈記全注釈』角川書店 1971年 【参】新編日本古典文学全集『方丈記他』小学館 1995年	
成績評価方法と基準	<基準> 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、その成果をレポートとして提出すれば合格とする。 <方法> レポート (50%)、演習 (40%)、授業参加度 (10%)	
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。	